慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	巻頭言
Sub Title	
Author	松田, 隆美(Matsuda, Takami)
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2017
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC Review Keio University). Vol.4, No.1 (2017. 3) ,p.3- 3
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000004-0003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

巻頭言

松田 隆美

慶應義塾大学 DMC 研究センター所長　文学部教授

『慶應義塾大学 DMC 紀要』第 4 号をお届けいたします。本号には、2016 年秋の DMC 研究センターシンポジウム「デジタル知が広げる文化財の可能性－デジタル知の文化的普及と深化に向けて－」における講演やパネル・ディスカッションをはじめとして、この 1 年間の活動報告、所員の研究成果などが掲載されています。DMC 研究センターが創設された目的のひとつに、慶應義塾が所蔵している様々な文化財を対象として新しいミュージアムの可能性を具体的に考えることがあります。DMC の研究の中核をなしている MoSaIC プロジェクトやキャンパス・ミュージアムも、新しいミュージアムのあり方を常に念頭において進められてきました。今年度は、3次元的な空間とモノとしてミュージアムに DMC の活動が具体的にいかなる貢献ができるか、そしてミュージアム環境の構築に本質的に関わることで実現するデジタル・アナログ融合型のユニバーシティ・ミュージアムの姿を実際に立ち上げるべく研究を進めてきました。

2016 年度の DMC のもうひとつの大きな活動は、慶應義塾大学が 2015 年に MOOCs（Massive Open Online Courses －大規模公開オンラインコース）の配信事業体である FutureLearn（本部：ロンドン）と協定を締結し、インターネットを通じて全世界に配信されるオンラインコース事業に参入するにあたって、コンテンツの開発母体となったことです。本年度 DMC は、日本の伝統的書物文化と現代日本のサブカルチャーをテーマとしてオンラインコースをすでに 2 本開発し、それらは FutureLearn を通じて配信され、世界中の受講者からとても良い評価を受けました。本号にはその開発に関する論文が掲載されています。

デジタル環境を介して社会とひろく繋がり、研究と教育の両面において活動の幅を広げてゆく DMC の姿が『DMC 紀要』第 4 号には記されています。